

# 業務部速報

No. 13

発行 18. 7. 10

JR東労組 業務部

## 申3号 「商品仕入業務の株式会社びゅうトラベルサービスへの移管」に関する申し入れ

### 第1項 商品仕入業務を移管する根拠を明らかにすること。

目的

- ①現在の環境に合わせた柔軟な仕入業務を実現させること。
- ②効率的な業務執行体制の構築が可能になること。
- ③各支社においては観光開発業務により注力できること。

確認!!

#### 【移管する理由と環境の変化とは】

魅力ある商品づくりと東日本エリアの観光流動につながるため「着地仕入」と「観光開発」は各支社で行うこととしていたが、ネット販売の変化が大きく、VTSに移管した方がよりタイムリーに商品造成を行うことが出来るために移管を実施する。

#### 【本体（各支社）に残る着地仕入・観光開発業務の必要性】

人だからこそできる創造的な仕事であり、よりやりがいのある仕事を残す。移管によって業務量は減るので、観光開発業務に力を入れることが出来る。

### JR東日本の旅行業は今後も維持・発展させていく。確認!!

### 第2項 商品仕入業務の移管にあたって、各支社における要員の削減があるのか明らかにすること。

- ・要員削減だけを目的とした移管ではないこと。
- ・商品仕入業務は12支社共通であるが、その業務量は支社による違いがあるため、各支社において検討し、当該地本と議論を行うこと。

確認!!

### 第3項 株式会社びゅうトラベルサービスにおいて、商品仕入業務の知識と経験があるのか明らかにすること。

- ・移管後においても、地域や宿泊施設との繋がりや信頼関係は無くなるものではない。
- ・今までの質を落とすことがないようにVTSと連携して取り組んでいく。

確認!!

組合

移管後のびゅうプラザ横浜は、半数が出向者である。大宮はカウンターが回らず2時間以上待たせている。欠員日が増えている。プロパーの採用と育成を早急におこなうべきだ!!

会社

厳しい採用状況の中でもグループ会社で採用を進めていく。計画的かつ具体的に進めていく。本体としても最大限フォローしていく。VTSで運営出来る体制をつくっていく。

### 第4項 移管時にJR本体からの出向が発生する場合の目的を明らかにすること。

- ・スムーズに移管するために出向は発生するが、出向ありきの施策ではないこと。
- ・出向した場合は協約に則り原則3年である。

確認!!

### 第5項 旅行業部門における技術力とサービスレベルの向上を通じて、旅行業で働く社員の働きがいを向上させること。

- ・社員の努力と地域との連携・取組みによって、今の当社の旅行業があり感謝している。
- ・店舗が閉鎖し対面販売が減っているので、その点を見れば働きがいは減っている。
- ・JR旅連加盟施設との関係は変わることなく、地元との密接なつながりを維持していく。

確認!!

組合

・レギュラー商品よりダイミツクルパック商品の料金が安い時がある。  
・旅とれーるは未だに発券が遅くて、と列が出来る。改修すべきだ。

会社

・発生しうる状況にはあるが、今後検討していく。  
・システム等の改修については、必要な改善を行っていく。

### 第6項 施策実施にあたっては、「新たな30年を展望する施策実施に向けた確認メモ」（平成29年12月27日締結）を遵守すること。

会社

・施策を実施する際は、スピード感をもって展開する。

組合

確認メモを労使で大事にしていくこと。  
スピード感をもつには労使で議論すること。

組合

・東労組としてスピード感をもって施策に向きあってきた。よりよい施策にするためには働きがいをいかに向上させるかであり、労使で今後も向きあって議論をしていく。

会社

・よりよい施策にしたいのは、会社も同じだ。議論したことを支社・地本にお互いに伝え進めていく。対話を大切に、しっかり実施していく。